



潮

風

平成10年1月20日発行(年2回刊)

〈教育後援会だより〉

しおかぜ

発行/明海大学浦安キャンパス教育後援会
〒279 千葉県浦安市明海8
電話 047-355-5112 FAX 047-355-5117

新春対談

21世紀へ向けて 本物が問われる時代

国際化、情報化社会に対応できる大学に

1988年の浦安キャンパス開設からはや10年が経過した。昨年は本学の創立者である宮田慶三郎理事長が逝去され、宮田侑先生が新理事長に就任と、大きな節目を迎えている。激動の變化を続ける社会の中で、本物の大学として生き残っていくためには、どのような舵取りが必要になってくるのだろうか。また、学内を活性化し、よりよい大学に発展していくために、教育後援会は何ができるのか、宮田侑新理事長と教育後援会の加藤想士会長に、大いに語っていただいた。

「本物」を育てる教育を 建学の精神をベースに

加藤：新理事長就任にあ

たつての抱負をお聞かせく

ださい。

宮田：21世紀まであと3

年。今、社会がものすごい

勢いで、絵画的に変化して

つあります。また、高等教

育の普及に伴い、学生に求

められるものは、さらに多

様化しています。この事実

を大学はどう受け止め、ど

う対応していけばいいの

か、真剣に考えなければな

りません。実際問題とし

て、教育界にも「ビッグバ

ですから、学生達の自主

性を尊重して、放任主義で

自由にやらせようというこ

とでは、本物の力はなかなか

は、努力すれば越えられる

というハードルを作り、そ

れをクリアしなければ先に

は進めないという方針を打

ち出していきます。語学教

育や情報教育など、生きて

いくために本当に必要なも

のを学ぶ中で、自分のこと

を考えると、自分自身も

養われていくでしょう。

加藤：社会で通用し、卒業

精神、や「明海哲学」をた

たきこんでほしいですね。

ところで、4月に大学院

の開設が決まったところで、

浦安キャンパスもアカデミ

ックな体制が整ってきま

きることを期待していま

す。



▲宮田侑理事長



▲加藤想士教育後援会会長

日本初の大学院研究科で 高度職業人を養成

した。これを機会に更なる

活躍と社会に一段と貢献で

いた存在ではないけない

たいと考えています。大学

院も、社会と密接に結びつ

けることを期待していま

す。

時代であると思

います。本学

の施設・環境の

再整備について

お伺いしたいと

思います。教育

後援会は、昨

年、大学側に①

学生寮の建設

②学生寮の建設

③国際交流の推

進④高度情報処

理の充実⑤浦安

キャンパスにお

ける大学院の設

置の5つの提言

をしておりま

す。大学院はいよいよ実現

となりませんが、ほかの項目

は、どのように検討した

いているでしょうか。



本物の教育を受けられる 環境作りが親の願い

宮田：学生たちが教育を受

ける環境は、ご父母として

は関心をお持ちでしょう。

それはいいなと思います。

私たちがやりたいことが

ありませんでしょうか。

宮田：大いにアバイスを

いただきたいと思います。こ

とを言っていました。

加藤：施設は徐々に充実させ

て、来年度から「教育の

品質管理」のひとつとし

て、学生たちの教育に厳し

いことを考えていくか、

飛躍と社会に一段と貢献で

いた存在ではないけない

たいと考えています。大学

院も、社会と密接に結びつ

けることを期待していま

す。

加藤：学生は未来からの留

材をどう育成していくか、

というところが課題になると

思います。また、企業と共

同で研究をしたり、研修を

したりと、大学院を社会と

直結したシンクタンク、

学研究所」は、日本ではじ

めることが、高度の技術を

身につけた職業人を養成し

て、大学経営が敵い

いでですね。

加藤：社会が求めている人

材をどう育成していくか、

というところが課題になると

思います。また、企業と共

同で研究をしたり、研修を

したりと、大学院を社会と

直結したシンクタンク、

学研究所」は、日本ではじ

めることが、高度の技術を

身につけた職業人を養成し

て、大学経営が敵い

教育後援会 創立10周年を 迎えて

会長 加藤想士

新春を迎え、教育後援会

の皆様は年頭のごあいさつ

を申し上げます。

明海大学浦安キャンパス

は昨年創立10周年を迎え

10周年記念明海祭も後援会

の支援と明海生の情熱で大

成功のうち終了しました。

4月には待望の大学院が

開設され、研究機関として

社会に貢献し、メッセージ

を発信できる大学院として

の成長が期待されます。

教育後援会も今年には創立

10周年を迎え、26の事業計

画を柱とし「誇りのもてる

大学」「学生個々を生かし

きる大学」の建設のため一

体となって活動しておりま

す。

大学も宮田侑新理事長

大東百子学長また、新副

学長に高倉勲教授が就任さ

れ、新体制が整いました。

今、明海大学も種をま

き、21世紀には美しい生命

の土壌にまかれる必要があ

る」と提言しています。

どのようが種をまき、実

践するか、明海大学の真価

が問われる時代がやってき

ました。皆様のご協力ご支

援を心よりお願い申し上げます。

最後に、教育後援会の皆

様「子弟の皆様、明海大学

教職員の皆様のご多幸とし

健康、ご活躍を心より祈念

申し上げます、新年のご

あいさつとさせていただきます。

（1997年11月6日

原宿・南国酒家にて）



▲大東学長(中央)と足立事務局長(左)と話す父母の方

4地区で353名の父母が参加

学校が、先生が身近に感じた地区懇談会



学校側より
 「大学院」「魅力ある大学作り」の
 途中経過も報告

父母と大学の先生方が親しく懇談できる場を作るついでに、9、4年にス
 タートした「地区懇談会」が、昨年と同じく北陸、東海、関東、東北の
 4年目となる今年には、それぞれの会場で、合計3
 53名の父母が参加。これまで最大規模で行われた。

4年前、いちばん最初に地区懇談会をスタートした東北地区は11月24日(祝)福島市にある「福島ヒュ
 ートル」で開催された。2
 回目の「回目」として、参加者もいて、会場は最初からな
 ごやかなムード。

地区懇談会・第一部は、新井敏男副会長が「教育後援会の事業の中で、地区懇談会は重要な位置づけとなっている。学校と父母の意見や希望をどんなに関が
 せてほしい」とあいさつし、基礎学力向上⑤学部・学科
 パスライフをエッセイで
 として大学側を代表して大東百谷子学長が、現在、国際化について、近く設

9月28日 新潟市「オーケ
 ノホテル新潟」参加者58名
 出席者/大東百谷子学長
 足立卓三事務局長、早川晃

9月28日 静岡市「ホテル
 ・アソシア静岡タリミナ
 ル」参加者36名
 出席者/高倉翔外国語学部
 長・事務取扱、小泉充樹不
 動産学部長、成瀬隆教務部
 長、事務取扱、小泉充樹不
 動産学部長、成瀬隆教務部
 長、梅澤新一事務部次長は
 か。教育後援会から秦誠三
 副会長、新井敏男副会長、
 稲葉光治幹事、鈴木久子幹
 事、渡辺省吾事務長

9月28日 福島市「福島
 ビューホテル」参加者67名
 参加者192名
 出席者/大東百谷子学長、
 高倉翔外国語学部長・事務
 取扱、安川正経学部長、成
 瀬隆教務部長、松本光平学
 務局長、梅澤新一事務部次
 長、近江彰学生課長ほか。
 教育後援会から新井敏男副
 会長、小林由美子副会長、
 榎部節子幹事、若山照夫幹
 事、山岡達哉幹事、渡辺省
 吾事務長(敬称略)

置認可が下りる予定の大学
 地区懇談会をスタートした
 院について話した後、「地
 区懇談会は1年に一度の機
 会、心配に思っている
 事、心配に思っている
 事、話をしてほしい。大学と
 できるだけのことをし
 て、ご父母の皆さんの期待
 にこたえたい」と話した。

その後、各学部・学科の
 学習意欲や態度など、かな
 りの情報が読み取れます。
 担当教員と父母の個人面談
 に移り、学生の履修科目表
 と試験結果を資料に真剣な
 面談が行われた。就職指導
 課、学生課、一部課の相談
 相談の内容は、成績、就職
 を含む進路、友達が少ない
 など学生生活に関すること
 が多かった。

面談の待ち時間には、教
 育後援会の活動をまとめた
 ビデオが放映された。ま

10月26日 浦安キヤンパス
 ビューホテル」参加者67名
 参加者192名
 出席者/大東百谷子学長、
 高倉翔外国語学部長・事務
 取扱、安川正経学部長、成
 瀬隆教務部長、松本光平学
 務局長、梅澤新一事務部次
 長、近江彰学生課長ほか。
 教育後援会から新井敏男副
 会長、小林由美子副会長、
 榎部節子幹事、若山照夫幹
 事、山岡達哉幹事、渡辺省
 吾事務長(敬称略)

この時間を利用して、
 大東学長と親しく懇談する
 父母の姿も見られた。
 「学長と直接お話できる機
 会はないので、今日はせ
 ひ、お声をかけようと思っ
 ていました。いいお話が聞
 けたという人も。第2部
 の懇談会でも、楽しい話の
 輪が広がり、教職員や会員
 同士の交流を深めていた。
 一々、浦安キヤンパスで
 行われた関東地区懇談会で
 は、「大学を一度見ておき
 たか」と、学校見学を
 兼ねて参加した人が多かつ
 た。中には「京都から10時
 間もかけて来ましたが」とい
 う人も。「地区懇談会が大
 学の様子を知る唯一の機
 会。また来年も開催してほ
 しい。できれば他の地区に
 も広げてほしい」という感
 想が聞かれた。

11月24日 福島市「福島
 ビューホテル」参加者67名
 参加者192名
 出席者/大東百谷子学長、
 高倉翔外国語学部長・事務
 取扱、安川正経学部長、成
 瀬隆教務部長、松本光平学
 務局長、梅澤新一事務部次
 長、近江彰学生課長ほか。
 教育後援会から新井敏男副
 会長、小林由美子副会長、
 榎部節子幹事、若山照夫幹
 事、山岡達哉幹事、渡辺省
 吾事務長(敬称略)

「学長と直接お話できる機
 会はないので、今日はせ
 ひ、お声をかけようと思っ
 ていました。いいお話が聞
 けたという人も。第2部
 の懇談会でも、楽しい話の
 輪が広がり、教職員や会員
 同士の交流を深めていた。
 一々、浦安キヤンパスで
 行われた関東地区懇談会で
 は、「大学を一度見ておき
 たか」と、学校見学を
 兼ねて参加した人が多かつ
 た。中には「京都から10時
 間もかけて来ましたが」とい
 う人も。「地区懇談会が大
 学の様子を知る唯一の機
 会。また来年も開催してほ
 しい。できれば他の地区に
 も広げてほしい」という感
 想が聞かれた。



▲大東学長(中央)と足立事務局長(左)と話す父母の方

地区懇談会参加者の意見アンケート内訳

回収数102 (東海地区27・北陸地区33・東北地区42)
 (お子さまの学部・学科 日本語学科 9名
 経済学部 経済学科 37名
 不動産学部 不動産学科 22名
 外国語学部 日本語学科 13名
 英米語学科 121名)

1. 「潮風」[meikari]を聴
 いていますか?
 毎回聴む 60名
 時々聴む 26名
 見出しを見て記事を読む 14名
 読まない 1名・無記名 1名

2. 大学からの情報に満足してい
 ますか?
 はい 81名
 いいえ 8名
 無回答 13名
 「いいえ」と答えた方へ、ど
 んな情報を希望しますか?
 ・就職関係
 ・奨学金制度の情報
 ・「潮風」[meikari]だけ
 では、子どもの進路情報をア
 ドバイスするのに不足
 ・未編までの行き届いた情報
 ・「meikari」を月2回く
 らい発行し、毎月送ってほし
 い

3. お子さまと大学について話を
 することがありますか?
 はい 55名
 いいえ 47名
 時々する 44名
 よくする 12名
 無回答 4名

4. お子さまとの話では、どんな話
 題が多いですか?
 ・就職・友人・留学・アパート
 生活・近況・部活・授業・卒
 業後のことについて・勉強・サークル

5. お子さまが就職を希望してい
 る地域は?
 東京 28名
 地元 35名
 その他 39名
 (無回答含む)

6. 大学に関しての要望は?
 ・Uターン就職についてのサ
 ポート
 ・就職に関する情報を
 ・進路の整備(特にインターン
 シップ)の充実については必ず父
 母に連携してほしい
 ・大学の現況報告を詳しく
 ・大学に学ぶような
 ・地方の就職情報
 ・学生寮の設置
 ・経済学部の教職課程を希望
 ・知名度を高く

7. 今後教育後援会に期待すること
 は?
 ・留学について
 ・大学の知名度アップ
 ・現状で十分です
 ・学生への日常生活の支援
 (下宿生には特に)
 ・事後報告ではなく事前の情報を
 ・親の負担軽減のためにも
 ・大学の真実を伝える
 ・学生寮の設置
 ・父母間のつながり
 ・5つの提言の実現

8. 今回の地区懇談会に参加した
 印象は?
 ・教授の話が聞けてよかった
 ・参加者と話ができよかった
 ・会場が賑に近くよかった
 ・夫婦で参加すればよかった
 ・大学の状況がよくわかった
 ・成績の話など聞かせてもら
 えた
 ・先生からの就職状況について
 出席者から
 ・出席者が思ったより少なく残
 念に思う
 ・とても有意義でした
 ・フロンティア大会でつづいた
 い家庭的な会でのんびりした
 質問に対して親切に答えて
 くれたことに感謝します
 ・懇談会の時間をもっと長く
 ・大学内のこともわかり子ども
 との話題も増えるかと思いま
 す

9. 次回も出席したいですか?
 はい 81名
 いいえ 4名
 無回答 13名

※無回答の多くは4年生

1. 「潮風」[meikari]を聴
 いていますか?
 毎回聴む 60名
 時々聴む 26名
 見出しを見て記事を読む 14名
 読まない 1名・無記名 1名

2. 大学からの情報に満足してい
 ますか?
 はい 81名
 いいえ 8名
 無回答 13名
 「いいえ」と答えた方へ、ど
 んな情報を希望しますか?
 ・就職関係
 ・奨学金制度の情報
 ・「潮風」[meikari]だけ
 では、子どもの進路情報をア
 ドバイスするのに不足
 ・未編までの行き届いた情報
 ・「meikari」を月2回く
 らい発行し、毎月送ってほし
 い

3. お子さまと大学について話を
 することがありますか?
 はい 55名
 いいえ 47名
 時々する 44名
 よくする 12名
 無回答 4名

4. お子さまとの話では、どんな話
 題が多いですか?
 ・就職・友人・留学・アパート
 生活・近況・部活・授業・卒
 業後のことについて・勉強・サークル

5. お子さまが就職を希望してい
 る地域は?
 東京 28名
 地元 35名
 その他 39名
 (無回答含む)

6. 大学に関しての要望は?
 ・Uターン就職についてのサ
 ポート
 ・就職に関する情報を
 ・進路の整備(特にインターン
 シップ)の充実については必ず父
 母に連携してほしい
 ・大学の現況報告を詳しく
 ・大学に学ぶような
 ・地方の就職情報
 ・学生寮の設置
 ・経済学部の教職課程を希望
 ・知名度を高く

7. 今後教育後援会に期待すること
 は?
 ・留学について
 ・大学の知名度アップ
 ・現状で十分です
 ・学生への日常生活の支援
 (下宿生には特に)
 ・事後報告ではなく事前の情報を
 ・親の負担軽減のためにも
 ・大学の真実を伝える
 ・学生寮の設置
 ・父母間のつながり
 ・5つの提言の実現

8. 今回の地区懇談会に参加した
 印象は?
 ・教授の話が聞けてよかった
 ・参加者と話ができよかった
 ・会場が賑に近くよかった
 ・夫婦で参加すればよかった
 ・大学の状況がよくわかった
 ・成績の話など聞かせてもら
 えた
 ・先生からの就職状況について
 出席者から
 ・出席者が思ったより少なく残
 念に思う
 ・とても有意義でした
 ・フロンティア大会でつづいた
 い家庭的な会でのんびりした
 質問に対して親切に答えて
 くれたことに感謝します
 ・懇談会の時間をもっと長く
 ・大学内のこともわかり子ども
 との話題も増えるかと思いま
 す

9. 次回も出席したいですか?
 はい 81名
 いいえ 4名
 無回答 13名

※無回答の多くは4年生

「進路に関する説明が聞け
 てよかった」(関東・2年)
 「働きながら2部に通っ
 ている。1部に編入して、学
 生生活もエッセイさせて
 あげたいが!」
 (東北・1年)
 「娘が浦安市内にアパ
 ートを借りているが、どんな街
 なのか、治安はいいか、
 地域のことをもっと知ら
 ない。教育後援会だけで特
 集してほしい」
 (東北・3年)
 「先生方と身近に話ができ
 るのがいい。今日はぜひ、
 大東学長と話をしてみた
 い」
 (東北・3年)
 「東北では明海大の知名度
 が低くて、どんな学校か心
 配していたが、先生方が熱
 心なことに感動した」
 (関東・2年)
 「娘の力がどの程度なの
 か、評価を聞いてみたい」
 (関東・2年)
 「春が大学を見ていないの
 みるつもり」(北陸・3年)
 「息子が大学院に進むこと
 を希望しているの、可能
 かどうか、先生に相談して
 ほしい。できれば他の地区に
 も広げてほしい」という感
 想が聞かれた。



▲大東学長(中央)と足立事務局長(左)と話す父母の方

